

# 障害者スポーツ推進プロジェクト

(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

## 事業成果報告書

2022年3月

愛知県

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクトとして、愛知県が実施した令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

# 目 次

- 1 はじめに
- 2 事業実施の背景
- 3 事業実施体制
  - (1) 委員名簿
  - (2) 開催実績
- 4 事業内容
  - (1) 障害者スポーツ交流事業
  - (2) 障害者スポーツサポート体制強化事業
- 5 事業の評価・今後の展望等
  - (1) 成果・分析
  - (2) 地域課題の整理
  - (3) 評価指標・実績
  - (4) 今後の方向性
- 6 おわりに

## 1 はじめに

本県は、2019年度にスポーツ局を設置し、それまで複数部局にまたがっていたスポーツ関連業務を一元化した。スポーツ局では、スポーツを活かした地域振興のほか、競技スポーツや生涯スポーツ、地域スポーツなどのすべてのスポーツ振興と一体となって、障害者スポーツを推進している。

東京オリンピック・パラリンピックの開催や、愛知・名古屋における2026年アジアパラ競技大会の開催検討を契機とした障害者スポーツへの関心の高まりの機運を逃すことなく、今後も、障害者スポーツを盛り上げるとともに、長期的な視点で障害者スポーツのより一層の推進に取り組んでいく必要がある。

そのため、2020年度には、愛知県障害者スポーツ推進検討会議を立ち上げ、有識者や障害者団体、スポーツ関係者や医療、経済界、教育等の様々な分野の参画を得て、障害者スポーツを取り巻く現状と課題を把握するとともに、課題に対する取組の方向性を整理し、今後の具体的な取組を検討した。

会議における検討結果を踏まえ、課題に対する取組として、障害者が日常的に地域でスポーツを楽しむ環境を提供し、地域住民と障害者の交流を促進するため、地域におけるスポーツ活動の拠点である総合型地域スポーツクラブにおいて、障害のあるなしにかかわらず交流できるプログラムを実施するとともに、障害者スポーツ推進のキーパーソンを育成するため、地域のスポーツ指導者であるスポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの関係者等に対する勉強会や体験会を実施することとした。

このように、本事業を始めとした障害者スポーツの推進に向けた取組を将来にわたり継続的に実施していくことにより、愛知らしい、スポーツを活かした共生社会や社会全体のバリアフリーの実現を目指していく。

## 2 本事業実施の背景

本事業を実施するに至った、2020年度実施の検討会議において整理した課題と会議における委員の主な意見、その課題に対する取組は以下のとおりである（本事業に係るものを抜粋）。

### <障害者スポーツを取り巻く環境における各関係者の問題点>

関係者	問題点	取組の方向性
障害者・家族	指導者が身近な地域にいない、いるかわからないスポーツをするきっかけとなる場がない	交流促進
スポーツ施設職員	障害者のスポーツ活動に対応できるスタッフがいらない	人材育成
企業・地域住民	障害者と交流する場が少ない、障害者スポーツを知る機会がない	交流促進

### <上の問題点に対する会議での委員意見>

分野	意見	取組の方向性
有識者	競技スポーツやリハビリ、レクリエーションなど、さまざまな要素が入ることによって障害者スポーツをより広く知ってもらえる	交流促進 人材育成
障害者団体	地域社会へ理解をどう得るかを具体的に考えていくべき	交流促進
スポーツ団体	地域との交流は総合型地域スポーツクラブが活用できる	交流促進

## <取組の方向性とその内容>

**交流促進**：障害のあるなしにかかわらず誰もが参加できるスポーツプログラムの実施  
**人材育成**：地域で活動するスポーツ指導者等への障害者スポーツの勉強会・体験会の実施

### 3 事業実施体制

事業実施にあたっては、本事業に関連する様々な分野の参画を得た、障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会を設置し、事業の進行管理、成果の検証及び今後の方策について検討した。

#### (1) 委員名簿

所属・役職名	氏名	
桜花学園大学保育学部国際教養こども学科 教授	寺田 恭子	委員長
日本福祉大学スポーツ科学部スポーツ科学科 准教授	兒玉 友	
愛知県障害者スポーツ指導者協議会 会長	古田 学	
愛知県スポーツ推進委員連絡協議会 副会長	井上 浩之	
愛知県理学療法士会 理事	熊澤 輝人	
愛知県社会福祉協議会福祉生きがいセンター 副部長	長谷川 直之	
愛知県スポーツ協会 事務局長	瀨瀬 賢二	
愛知県スポーツ局競技・施設課 課長	大参 孝彰	

なお、委員以外においても、福祉部局や教育委員会、特別支援学校校長会と、広報での連携協力や情報共有により、行政機関等ともネットワーク体制を構築して事業を進めることとした。

#### (2) 開催実績

	日程	議題
第1回	2021年7月30日(金)	・2021年度障害者スポーツ推進プロジェクトの事業説明及び進捗状況について
第2回	2022年2月8日(火)	・事業内容の報告 ・事業の評価、今後の展望等

## 4 事業内容

### (1) 障害者スポーツ交流事業

地域におけるスポーツ活動の拠点である総合型地域スポーツクラブにおいて、障害のあるなしにかかわらず誰もが楽しめるスポーツプログラムを実施し、健常者と障害者の交流を促進することにより、日常的に障害者が地域でスポーツを楽しむことができる環境を整える。

県内3地区（尾張、西三河、東三河）において実施し、今年度にプログラムを実施したスポーツクラブをモデルとして、今後も継続して実施することで県内各地への面的な広がりを図る。さらには、近隣クラブ等の横のつながりによるノウハウの共有等を働きかける。

#### ○ 実績

##### 尾張地区

参加者数	40人
開催日	2022年1月15日(土)
実施クラブ	わっと楽しくスポーツふそう（丹羽郡扶桑町）
会場	扶桑町総合体育館
内容	<p>ボッチャの体験・交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいちボッチャ協会によるルール説明、指導</li> <li>・投げる練習及び試合形式</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該クラブとして初めての障害者スポーツのプログラムの実施であったが、あいちボッチャ協会の指導のもと、円滑に運営できた。</li> <li>・フラフープやミニコーンを使用してコントロールを競うなど、障害のあるなしにかかわらず、年齢に関係なく誰もが楽しめるよう工夫して実施した。</li> <li>・健常者の小学生親子の参加も多く、障害者と交流できたことが新鮮であったとの声が聞かれた。</li> <li>・地元ケーブルテレビの取材が入ったことにより、より多くの地域住民への普及につながった。</li> <li>・今後もクラブの自主的な取組として、障害者が参加しやすいプログラムを継続して実施していきたいとの声が聞こえた。</li> </ul>

**西三河地区**

参加者数	35 人
開催日	2022 年 1 月 30 日(日)
実施クラブ	高橋スポーツクラブ (豊田市)
会場	サンアビリティーズ豊田
内容	<p>ダーツの体験・交流</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ダーツのルール指導</li><li>・投げる練習、試合形式</li></ul> 
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域のクラブと地元の障害者団体（豊田市身障協会）が協力して開催することで、多くの障害者の参加があり、幅広い交流ができた。</li><li>・ルールが簡単であり、自ら得点を計算するなど、全ての人が主体的に参加し、楽しむことができた。</li><li>・近隣クラブスタッフの見学があり、運営ノウハウを共有するなど、クラブ間の連携、地域的な広がりにつながった。</li></ul>

**東三河地区**

参加者数	60 人
開催日	2021 年 12 月 12 日(日)
実施クラブ	SKITS クラブ (豊橋市)
会場	豊橋市石巻地区体育館
内容	<p>ボッチャの体験・交流</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・運営協力者によるルール説明</li><li>・投げる練習、試合形式</li></ul>





成果

- ・地域で普段から障害者スポーツの体験会を開催している特別支援学校の教員などが運営するグループの協力により、障害者に対する指導が円滑に実施できた。
- ・行政職員や近隣クラブのスタッフにも参加してもらえたため、市町村やスポーツ推進委員との連携を図ることができた。
- ・今回の協力者を近隣クラブに紹介し、活動を広げていくなど、地域に幅広く根付かせていくきっかけとなった。



## (2) 障害者スポーツサポート体制強化事業

地域のスポーツ指導者であるスポーツ推進委員や、総合型地域スポーツクラブ関係者等の人材に対して、障害者スポーツに関する勉強会・体験会（ワークショップ）を実施することにより、障害者スポーツへの理解を促進する。

また、これらの人材を、障害者が身近な地域でスポーツ活動をするための助言・情報提供を行うキーパーソンとして育成し、障害者が日常的に地域でスポーツを楽しむことができる環境を整える。

県内2地区（尾張、三河）において、より地域の実情に応じた障害者スポーツの助言、アドバイスができるように指導者間の連携体制を構築する。

### ○ 対象者

スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブスタッフ、理学療法士、作業療法士、教員等


### ○ カリキュラム（ワークショップ）

- 1日目（勉強会）：講義を受講し、障害者スポーツや障害について学ぶ。
- 2日目（体験会）：障害者の活動を想定して、競技団体の指導のもとスポーツを体験し、より障害者が楽しめるルールを検討する。
- 3日目（実践）：障害者が参加するテストマッチ（ゲーム）の運営、審判を担い、障害者がスポーツ活動を行う際の助言、アドバイスを実践する。

## ア 実績

**尾張地区** 参加者 27人

### ○ 1日目

開催日	2021年10月9日(土)
会場	愛知県教育会館
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 講話1 内 容：障害の種別やその特性 スポーツ活動をするために配慮すること 講 師：桜花学園大学保育学部 寺田恭子教授</li><li>・ 講話2 内 容：障害への理解 スポーツ活動を支えるための経験について 講 師：名古屋柳城女子大学こども学部 小野隆教授</li><li>・ 障害者スポーツの紹介 内 容：障害者スポーツについて知る 講 師：名古屋柳城女子大学こども学部 小野隆教授</li><li>・ 参加者ミーティング、チーム編成</li></ul>
	

## ○ 2日目

開催日	2021年10月31日(日)
会場	名古屋市障害者スポーツセンター
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技団体の指導のもと、障害者の活動を想定したスポーツの体験(競技:車いすバスケットボール、ドッジボール、バウンドテニス)</li> <li>・3日目の「実践」に向けたミーティング、ルール検討</li> </ul>
	 <p>間隔を空けて準備運動</p>
	 <p>車いすバスケットボールを体験</p>
	 <p>競技団体から指導を受けて</p>
	 <p>障害者スポーツ指導員を含めてのミーティング、ルール検討</p>

## ○ 3日目

開催日	2021年12月18日(土)
会場	愛・地球博記念公園体育館
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者が参加するテストマッチの運営</li> <li>・参加者(障害者)との意見交換及び今後に向けての反省会</li> </ul>
	 <p>会場設営</p>
	 <p>転がして当てるドッジボールにルール変更</p>
	 <p>参加者全員で反省会</p>
	 <p>最後に記念撮影</p>



**三河地区** 参加者 14 人

○ 1日目

開催日	2021年10月3日(日)
会場	豊橋市総合体育館
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講話1 内 容：障害の種別やその特性 スポーツ活動をするために配慮すること 講 師：中部大学生命健康学部 伊藤守弘教授</li> <li>・講話2 内 容：障害への理解 スポーツ活動を支えるための経験について 講 師：名古屋柳城女子大学こども学部 小野隆教授</li> <li>・障害者スポーツの紹介 内 容：障害者スポーツについて知る 障害者がスポーツをする上でのルールを考える 講 師：名古屋柳城女子大学こども学部 小野隆教授</li> <li>・参加者ミーティング、チーム編成</li> </ul>
	 

○ 2日目

開催日	2021年10月17日(日)
会場	豊橋市総合体育館
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技団体の指導のもと、障害者の活動を想定したスポーツの体験 (競技：車いすバスケットボール、ドッジボール、バウンドテニス)</li> <li>・3日目の「実践」に向けたミーティング、ルール検討</li> </ul>
	 <p>バウンドテニスを体験</p>  <p>ドッジボールで白熱</p>  <p>競技団体から指導を受けて</p>  <p>障害者スポーツ指導員を含めての ミーティング、ルール検討</p>

## ○ 3日目

開催日	2021年10月30日(土)
会場	豊橋市総合体育館
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者が参加するテストマッチの運営</li> <li>・ 参加者(障害者)との意見交換及び今後に向けての反省会</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>事前打合せ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>車いすバスケットボール</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>バウンドテニス</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>振り返り</p> </div> </div>

## イ 成果

- ・ 1日目の講師を務めた有識者は、障害者スポーツ指導員としての活動の豊富であり、学術的な見地に加え、これまでの障害者と接した実体験も含めた講義をとらせた。その結果、参加者は、障害についてよりリアルに学ぶことができたことに加え、本県で実施している障害者スポーツ大会の運営や全国障害者スポーツ大会の様子などについても知ることができ、障害者スポーツについて幅広く知識を習得することができた。
- ・ 参加者の、参加したきっかけもさまざまであったが、多くは地域のスポーツ指導者であり、障害者スポーツに携わりたいという思いは強く、今回の内容を今後の地域の取組に生かしていきたいという声が多かった。
- ・ 理学療法士や民間のスポーツクラブスタッフ、教員や保育士など、さまざまな職種参加者がおり、それぞれがこれまでなかった関係性を築くことができた。今後、医療と教育分野との情報交換など、障害者スポーツを取り巻く関係者間の情報共有を促進していくための土台となった。
- ・ 障害者スポーツ指導員の資格を取得し、活動の幅を広げたいと考える意欲的な参加者もいた。ワークショップから指導員資格取得者を輩出し得る取組となった。
- ・ 協力を得た競技団体の一部は、障害者との交流が初めてであったが、今回のワークショップは団体側にも勉強になっており、今後の障害者の受け入れに積極的な姿勢を感じた。また、障害者においても、体験した競技を今後も続けるため、団体へ登録するなど、双方に良い効果があった。
- ・ 障害者を身近な存在と認識し、声かけしやすくなった、ハードルが下がったなど、障害者との関わり方についての意識を変化させるきっかけとなった。

## 5 事業の評価・今後の展望等

### (1) 成果・分析

#### ア 障害者と地域・健常者との交流促進

- ・ 地域のスポーツクラブが障害者スポーツに関心を持ち、障害者と地域住民が交流することができた。今回初めて障害者が参加できるプログラムを実施したクラブにおいても、「やってみればできる」と感じる事ができた。
- ・ 地域のスポーツ指導者が、障害者にも目を向けるきっかけとなった。「声をかけたくてもどうしたら良いか分からない」「指導したくてもどのように接していいのか」などといった不安が解消され、身近な存在として認識できた。今後、地域の活動として障害者と健常者が一緒に楽しむことができる行事を企画したり、障害者に対して積極的に助言・情報提供するなど、今回の成果を地域に還元していくことを期待したい。

#### イ ネットワークの構築

- ・ 実行委員会の設置により、関係者の顔の見えるネットワークを構築することができ、円滑な取組が促進された。この実行委員会において築いた連携体制により、本事業の再委託先である愛知県スポーツ協会は、スポーツ全般に及ぶ広い視野に基づく企画力や、総合型地域スポーツクラブの中間支援組織の運営等による地域や各団体との関係などの強みに加え、これまで本県の障害者スポーツの推進を担ってきている愛知県社会福祉協議会福祉生きがいセンターや愛知県障害者スポーツ指導者協議会による助言や協力を得られたことで、社会参加や福祉の要素を取り入れるなど、より効果的な取組を円滑に実施することができた。
- ・ これまで障害者スポーツとの関わりが希薄だった総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員連絡協議会が、愛知県社会福祉協議会福祉生きがいセンターや理学療法士会などの関係者とつながることで、地域のネットワークが広がった。
- ・ 地域のスポーツ指導者が、障害者スポーツ指導員とネットワークを構築し、用具の貸出や指導者の派遣などの意見交換を行うとともに、自ら障害者スポーツ指導員の資格を取得する意欲を見せるなど、今後の活動の幅を広げるきっかけとなった。

### (2) 地域課題の整理

#### ア 総合型地域スポーツクラブの運営体制の地域差

- ・ 地域のスポーツクラブの活動において、障害者が参加したことがないなど、障害者と地域との交流の場がない地区もあることが分かった。今回のプログラムを実施したクラブについては、その経験を活かし、モデルとして取組を継続するとともに、今後、県内各地域へ広げていくことで、地域差を解消していく。

#### イ スポーツ推進委員や教員等のネットワーク

- ・ 障害者とスポーツをした経験がない、障害者と関わったことがない指導者等もいることがわかった。今回の参加者が、その経験を活かし、関係者間の定例会等でも情報共有してネットワークを広げていく。

#### ウ 自治体（市町村）の推進体制

- ・ 地域で障害者のスポーツ活動を定着させていくためには、市町村の関与が不可欠であるが、スポーツ推進委員が障害者スポーツの取組を立案しようとしても、地域によっては積極的ではない自治体があることがわかった。今回の参加者の経験を地域内に展開していくとともに、次年度は行政職員にも積極的に本取組への参加を働きかけていく。

### (3) 評価指標・実績

#### ○ 障害者スポーツ交流事業

参加者数 1 回あたり 50 名 → 1 回あたり 45 名

アンケート評価の満足度 90% 以上 → 満足度 100%

#### ○ 障害者スポーツサポート体制強化事業

参加者数 1 回あたり 40 名 → 1 回あたり 21 名

アンケート評価の満足度 90% 以上 → 満足度 100%

新型コロナウイルス感染症の影響や、募集期間が短くなったことが重なり、参加者数は目標を上回らなかったものの、アンケートでは、2つの事業とも満足度は非常に高かった。

総合型地域スポーツクラブにおけるプログラムの参加者からは、今後参加したい種目についても多くの意見があり、また、スポーツ指導者等のワークショップにおける参加者からは、今回参加したことによる障害者スポーツについての認識の変化や、学んだことの役立て方などで具体的な意見が多くあり、これからの活動に期待が持てる結果となった。

さらに、スポーツ指導者等については、広い範囲の市町村（県内全 54 市町村中 20 市町村）からの参加があったことから、今回の参加をきっかけに、県内の隅々まで障害者スポーツに関する取組が広がっていくことに期待が持てる結果となった。

今後事業を進めるにあたっては、障害者の日中活動をサポートする、地域活動支援センターやスポーツ少年団など、募集対象範囲を広げるとともに、今回の参加者からも情報を広げてもらうことで、地域の広がりや参加者の拡大に努めていく。

### (4) 今後の方向性

#### ア 障害者スポーツ交流事業について

- ・ 今回実施した 3 クラブには、地域のモデルとして、引き続き障害のあるなしにかかわらず誰もが楽しめるプログラムを自主的に実施するとともに、近隣クラブとノウハウを共有するよう働きかける。今後は、地域のモデルとなるクラブをさらに増やしていくことで、県内各地域に範囲を広げ、障害者と健常者の交流の促進を図っていく。
- ・ 障害者の地域における自主的なスポーツ活動の定着を目指し、参加者が継続してスポーツ活動をしたいと感じられる、満足度の高い取組とする。

#### 【令和 4 年度評価指標(案)】

プロジェクト実施クラブ数 5 クラブ

参加者満足度肯定的な意見の割合 90% 以上

#### イ 障害者スポーツサポート体制強化事業について

- ・ スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ関係者に加え、スポーツ少年団の指導者など、より幅広い地域の指導者等を対象として、引き続き県内 2 地区（尾張、三河）で実施していくことで、障害者スポーツ推進に向けたキーパーソンをさらに育成していく。今後は、より広い範囲の市町村から参加してもらうことで、県内の隅々まで障害者スポーツの取組を広げていく。

- ・ 次年度以降の本県の障害者スポーツ大会やイベント等への継続した協力や、障害者スポーツ指導員の資格取得を希望するなど、参加者が活躍の幅を広げたいと感じられる、満足度の高い取組とする。

**【令和4年度評価指標(案)】**

参加者の在住市町村 22市町村以上（54市町村中）

参加者満足度肯定的な意見の割合 90%以上

## 6 おわりに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じながら、なんとか事業を実施することができた一年であったが、参加者の満足度は高く、総合型地域スポーツクラブにおいては自主的に継続する意向もあり、初年度としては十分な成果が得られた。

しかし、地域の課題も明らかとなったため、課題の解決に向けて、今回構築できたネットワークを活かして事業を継続することで地域差をなくし、障害者が日常的にスポーツに楽しむ環境を整備していく。